

2025年4月吉日

幼稚園保護者の皆さまへ

学校法人いづな学園事務局

## 2024年度 学校評価のまとめ ～ こどもの森幼稚園 ～

本年度の学校評価への取り組み

いづな学園では、学校を運営する上での課題を明確にし、次年度の重点目標を設定するために、以下のとおり学校評価に取り組んでいます。

### 学校評価の流れ

- 2025年 2月 保護者アンケートの実施  
2025年 3月 保護者アンケートを受けての自己評価  
保護者に保護者アンケート結果を報告  
評価者に保護者アンケート・内部評価を公表、外部関係者評価実施  
評価方法:保護者・自己評価を受けての意見聞き取り及びアンケート調査  
2025年 4月 理事会及び評議員会で内部評価及び外部関係者評価結果を報告  
ホームページに外部関係者評価を掲示

## 2024年度 こどもの森幼稚園評価シート

2024年度こどもの森幼稚園の学校評価は以下のとおりとなりました。

A:評価できる B:やや評価できる C:やや評価できない D:評価できない

※ 評価段階 : A > B > C > D

項 目		評 価			
		保護者	自 己	関係者	
幼稚園全般に	1	幼稚園は保護者に園や子どもの様子をしっかりと伝えていると評価できる	A	B	A
	2	幼稚園はさまざまな行事を通して保護者へ子どもの様子や育ちを伝えていると評価できる	B	A	A
	3	幼稚園は、子どものことについての相談事に対し保護者へ適切に対応していると評価できる	B	B	A

ついで	4	園内の掲示物などでも情報発信が出来ていると評価できる	B	A	A
	5	HP、SNS、アプリ等での発信が出来ていると評価できる	C	B	A
教育方針等について	6	本園の教育方針及び今年度の重点目標① 「豊かな自然の中で四季を感じながら遊びこむこども」と評価できる	A	A	A
	7	本園の教育方針及び今年度の重点目標② 「自分を大切にしたい好きなことに夢中になるこども」と評価できる	B	A	A
	8	本園の教育方針及び今年度の重点目標③ 「対話の中で全ての存在を認め命を大切にすることも」と評価できる	A	A	A
	9	幼稚園は、保護者とのコミュニケーションを積極的にとりながら保育を行っている	B	B	A
	10	幼稚園は、園児達に元気良く活動できる機会を与えている	A	A	A
	11	幼稚園は、年齢別活動と年齢混合活動を取り入れて、子どもたちに思いやりの心を育てている	B	A	A
	12	幼稚園は、園児に絵本の世界を楽しめる読み聞かせなどを行っている	B	A	A
	13	幼稚園は、子どもを理解し、子どもの性格や長所を把握して指導にあたっている	A	A	A
14	幼稚園は、先生たちが協力して教育活動にあたっている	B	A	A	

自己評価の意見と来年度の課題	<p><b>○新体制について</b>          新体制となり、職員が一丸となり、一年過ごしてきた。来年度はさらに職員一人一人の野外スキルをさらに向上させて、こどもの森ブランドを確立し、ここでしか味わえない自然保育を職員一人一人と追求し深めていきたい。</p> <p><b>○ICTの活用（HP、配信、SNS、掲示等の可視化）について</b>          二期の途中から可視化の重要性を職員間で話し合い、保護者になるべくわかるような発信を心がけたか、一期はそれが出来なかった。また、おたよりの配信や掲示等で、保護者にとってはわかりづらい内容のものがあるとご意見もいただいた。そのことを踏まえて、HPの見直しやアプリ配信の書式の改善をはかり、昨今教育機関で多く使用されているキャンバの活用を通して、必要な情報を的確に伝えていく必要がある。          一方でInstagramフォロワー数が昨年4月より300人増えたことも事実なので、改めてInstagramの配信内容もブラッシュアップして、さらなる広報やこどもの森の育ちの発信、知名度をアップさせていきたい。</p> <p><b>○保護者の参加行事の質の強化</b>          保護者の参加の多い園として、一つ一つ行事の意味を再確認し、そこに集ってきている保護者に対しても、「今日来て楽しかった」と感じてもらえるようなプログラムを提供すること改めて職員間で話し合い、形にしていきたい。</p>
外部評価者の意見	<p>こどもの森幼稚園では、子どもの姿に基づき検討された年間計画により、自然環境を活用しながらダイナミックな保育が展開されています。その実践には、保育者同士、園と保護者、さらには地域との連携が欠かせません。こどもの森幼稚園の保育の意図を、ドキュメンテーションやSNSを活用し発信されていることで、年々保護者や地域の方々の園に対する理解が深まり、連携が強化されていると考えております。</p> <p>今年度の重点事項「異年齢の関わりを大事にする」については、私が園を訪問させていただくようになって数年が経ちますが、当初から実践されていることであり、こどもの森幼稚園の保育方針そのものであると認識しております。重点目標の3つの項目①こどもの森のなにげない日常の中での対話を深める、②憧れが、自らの心と身体の前動力になる、③人との係わりの中で、助け合い、優しさを育むについても、生活の中での年長児と年少児、年中児同士のペアリングはもちろんのこと、年間を通した活動の随所で実現されていると考えます。</p> <p>現在、幼児教育のあり方や教育の価値について様々な角度から検討が重ねられています。こどもの森幼稚園では、新年度から二歳児クラスもスタートすると伺っております。雄大な自然の中で、保育者と子どもが信頼関係で結ばれ、子ども同士が縦横のつながりの中で心身共に成長していく、こどもの森幼稚園の高度な保育実践とその魅力を、引き続きSNS等を活用して内外に発信していただきたいと考えます。(立正大学 加藤氏)</p> <p>外部からの評価者として、それほど頻繁に通えているわけでもないのですが、こちらからは見えにくい部分をBとさせてもらいました。自然を生かした保育、子どもたちに元氣よく活動できる機会を提供する、好きなことに夢中になるなどは文句なく素晴らしい実践が出来ていると感じます。</p> <p>また、年齢別(横割り)と異年齢(縦割り)の活動をうまく組み入れているところも良く考えられていると感じます。縦割りの良さというのがあるのですが、年齢や能力に近い子どもたちが思い切り自己発揮して活動をする横割りの活動にも大きな価値があると思っていますので、こどもの森幼稚園の保育実践には工夫があって良いなと思っています。</p> <p>新年度からは2歳児の保育が始まるということでこちらでも楽しみです。都市部では小規模保育施設が増えましたが、そこから3歳以降の保育施設への接続に難があるところも多々あるようです。こどもの森幼稚園の2歳児クラスが、3歳児への接続のモデルケースになるような保育をしてくれることと期待しています。「自然」や「対話」といったことを保育の軸にしていくと、2歳から3歳への移行、そして幼稚園から小学校の移行もスムーズにいくのではないのでしょうか。          (日本女子大学 請川氏)</p>

来年度の  
教育活動  
における  
重点項目

みどりクラスが新設されることもあり、改めて異年齢の関わりに重点を置いて取り組んでいきたい。  
大人同士の対話はもちろん、子どもたちとの対話も重点に置き、大人が全て伝えたり、教えていくのではなく、子ども同士での対話の場を設け、特に年長児を中心に、子ども同士で解決する力や活動に力を入れていく。そこで、以下の重点目標とすることを決めた。

○テーマ ～異年齢の関わりを大事にする～

- 1. こどもの森のなにげない日常の中での対話を深める
- 2. 憧れが、自らの心と身体の前動力になる
- 3. 人との関わりの中で、助け合い、優しさを育む